



過去の記事は
こちらから

犬山市部活動地域移行 News No.17

第4回部活動地域移行検討委員会 協議内容について

2月20日に開催された第4回部活動地域移行検討委員会では、休日合同クラブ、地域クラブに関する生徒・保護者・教職員へのアンケートの回答結果や犬山市「部活動の地域展開」の状況についての経過報告、犬山市地域クラブ認定制度や地域バンドの今後のあり方について協議しました。（詳細は犬山市HPに掲載中）



【報告：①部活動地域移行に向けた経過報告について】

Q:誠信高校との打ち合わせの目的および今後に望む展開は？

A:誠信高校が陸上やラグビーなどの種目について4月からクラブチームを立ち上げるため、近隣市町に声をかけている。今後、子どもたちの選択肢の1つとして展開できるのではないかと考えている。
→ 地元の指導者不足という観点から、近隣の高校や大学に通う若い世代の選手から指導を受けることは1つの方策である。

【報告：②休日合同クラブ、地域クラブに関する生徒・保護者・教職員へのアンケートと回答について】

上位大会に繋がる大会とそうではない大会で、レギュレーションを分けていく必要がある。また、子どもたちがやってきたことを発揮する場（大会など）があってほしいとアンケートからも読み取れるため、大人が制度を整えていかないといけない。

犬山市「子ども大学」という事業があり、来年度はできるだけ中学生も受け入れるという方針が決まっている。様々なジャンルの講座を地域の大人が指導者になって子どもに教える取組なので、今後は中学生向けの内容を拡充していく予定である。

【報告：③犬山市「部活動の地域展開」の状況について】

Q:家庭が負担する会費が多くなっていくと、子どもたちが参加するのか懸念されるがどうか。

A:国が1ヶ月1,000円から3,000円程度と目安を提示しているため、団体には伝えている。ただ、参加人数が読めないということもあり、目安以上の会費を設定しているクラブチームもある。団体の運営方針なので、事務局としては目安を伝える程度に留めている。

指導者資格の保有を認定要件にするかについても、今後の課題としたほうがよい。日本スポーツ協会がスポーツ少年団の人でも比較的簡単に取得できるような資格認定を行っている。

【協議：①犬山市地域クラブ認定制度について】

認定地域クラブが中小体に参加できる条件として、市内中学校に在籍する生徒で構成されたチームだと前回伝えたが、国や県は支所内の人員で構成されたチームという方針でいる。愛知県だと東三河のような過疎地では町内・市内ではチームが成立しないため、すでに市町を越えて合同チームを結成しているという現状を考慮しているとのこと。ただし、西尾張大会については、地域展開の進捗状況が市町村によってまちまちのため、学校部活動の生徒に不利益が生じないように、また他の市町との生徒の取り扱いにならないように、今年度は市内中学生で構成された地域クラブを大会の出場条件として進めようとしている。

【協議：②地域バンドの今後のあり方について】

今、全国の学校で進められている「部活動の地域展開」。これは文部科学省が進めている取り組みで、学校と地域が協力して、子どもたちが地域の中で安心して活動が続けられる環境を整えることを目的としています。吹奏楽の分野は、楽器の管理や練習場所、指導してくれる人など、必要な条件が多く、地域化が難しい分野のひとつとされています。

一番大切なのは、「活動の場を減らさないこと」です。吹奏楽は「人・物・お金」の3つが同時に関わってくる分野です。指導してくれる人がいて、楽器や練習できる場所があり、そして移動や運営に必要なお金がある。そのすべてが整って初めて、日々の練習や発表が成り立ちます。少子化の影響で、1校あたりの部員数が減っているのも大きな課題です。「無理のない運営」をどう設計するかが大切になってきます。

～「吹奏楽の未来を地域とつなぐ（ヤマハが取り組む「地域展開」支援のかたち）」より～

犬山市における地域バンド創設に向けて

犬山市内で2つの地域バンド（北部バンド・南部バンド 各50人程度）

- 指導者：吹奏楽指導員（教員を含む兼職兼業）を予定。確保できていない。
- 練習場所：犬山中学校・東部中学校の音楽室および教室等を予定。
★教職員が運営に携わらない場合の教室等の使用が課題。
- 活動費：年間活動費（令和6年度実績で1人43,000円程度）
+ 地域バンド代表の報酬（プロの指導者 時給4,000円）

解決しなければならない課題が多く、地域バンドの創設が見通せない状況



Q：運動部の費用補助は検討していないとのことだったが、吹奏楽はどうか。

A：国から補助金がある内は対応ができるが、補助金がなくなった場合、先の見通しは立っていない。当委員会で忌憚のないご意見をいただき、検討していきたい。

顧問からは、運営することが一番大変だと聞く。指導については、先輩が後輩を教えたりすることも多少できるが、収支管理やバスの手配などは大人がやらねばならない。これをどこかに任せることができるとよい。犬山市の文化会館を拠点にして大型楽器を保管してもらい、その他の楽器は自分たちで運ぶと単純に考えていたが、そういうわけにはいかない。

Q：文化会館を拠点として、二部構成で運用することはできないか。

A：現在文化会館が改修工事中であること、パート練習のための部屋が欲しいというニーズを満たすことができないこともあり、話が頓挫している。また、平日は各学校での練習になるため、大型楽器の運搬が必要となる。

平日の部活は行わないことを前提に改革を進めない限り、話が進まない。いつまでも楽器の運搬で悩んでいたら、学校が手を離すことができない。楽器は市の建物で管理し、土日の活動を基本にすべきだ。教員の勤務時間内で平日の部活を行うとなると、1日30分程度の活動時間。その30分のために話が進まないとなると、どっちを取るかという話だと思う。

高校生の吹奏楽部では保護者が結成されており、楽器運搬や会場の手配を親がやっている。親のバックアップがないと厳しいと感じている。

音楽をやりたくても家庭状況によっては諦めていく人も出てきてしまう。

吹奏楽は、大学に進んでからは活動を続けていないイメージ。吹奏楽部に関わった人数が多いため、指導できる人が埋もれていると思う。プロまでは難しくても、OB・OGの協力をお願いすることもできるのではないかな。